

次期県立高校将来構想「高校教育の創造的な再構築」に向けた柱となる取組について

目的

- 全ての生徒の可能性を最大限引き出す質の高い高校教育を実現するため、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。
- この実現に向け、少子化の急速な進行等の社会経済環境の変化を直視しながらも、持続可能な教育環境を整えるため、県立高校の創造的再構築を行う。

取組の方向性

- 学校に生徒を合わせるのではなく、興味・関心や希望に応じて生徒が学びを選ぶ、生徒を主語にした高校教育の実現
- デジタル技術を活用した学びと、対面によるリアルな学びを効果的に組み合わせ、多様化・グローバル化する社会の中で、主体的に課題に取り組み、未来を切り拓く資質・能力を育む新たな学びの環境を整える。

1 学力と探究を極め進学力も向上させる環境の整備

- ✓ 高い学力と探究力を兼ね備え、難関大へも挑戦できる人材を育成する拠点校を設置する。

- 他の拠点校等と連携したピアグループ（協働学習体制）の形成等による進学力強化
- 実践的な課題解決能力を養う探究活動による希望進路の実現



仙台三高：教科横断的な「データサイエンス」による科学的探究学習

2 専門学科における実践的な学び

- ✓ 農業や工業については、大学や民間との連携により先端技術に関する学びを充実させた科学技術高校を設置する。
- ✓ 水産については、6次産業化や海洋資源の活用など、地域の特色を活かした学びの機会を提供する。
- ✓ そのほか、農業科、工業科、商業科など、複数の学科を幅広く学べる環境を整備し、より実社会と結びついた学びの機会を提供する。
- ✓ さらに専門性の追求など多様な進路に対応した学びへも対応。



科学技術高校のイメージ
(Google Geminiで作成)

3 多様な学びのニーズへの対応

- ✓ 多様な学習ニーズに応じてフレキシブルに学ぶことのできるidealスクールの取組の実績を踏まえ、他地域への展開を検討する。
- ✓ 多様な状況の生徒、配慮や支援が必要な生徒が取り組みやすい環境づくりを進める。



idealスクールのイメージ図
(ChatGPTで作成)

4 オンラインの効果的な活用などによる教育空間の拡張

- ✓ オンライン教育センター(仮)の設置により、小規模校をはじめとする学校での学びの質を確保する。
- ✓ 通学や移動時間が長くなる生徒のため、デジタル技術の活用によりギャップを埋める対策を講じる。



田尻さくら高校：遠隔授業配信

▶ 創造的な再構築に向けた学校配置・学級規模の設定

- ・ 学校活動の維持のためにも、一定程度の学校規模を確保するため、圏域を広く捉えることとし（7→5）、圏域の実情を踏まえながら、普通科や専門学科、多様な学習ニーズに対応するための学校を配置する。
- ・ 必要学級数の設定に当たっては、人口動態の他、私立高校の授業料無償化などの制度変更の影響も盛り込む。